

響きあう未来

フランソワ・マジャンディ高校
ラポルト・ジャド

私たちのプロジェクトのテーマは「日本における伝統と外国文化の影響の二元性」でした。世界にその門戸を開いてグローバル化を遂げ、世界の主要国となった日本ですが、一方でその文化は世界中で人気が高く、強いアイデンティティを持っています。今回の旅行中、私たちのグループはこうしたコントラストに注目したいと考えました。

まず奈良の東大寺を訪れました。世界最大の木造建築であるこの寺には、高さ 18メートルの大仏が安置されています。私たちが訪問した時周辺は閑散としており、そのため寺は一層荘厳に見えました。鹿がそこら中にも（またその食欲にも！）びっくりしました。これらの鹿がすべて放し飼いになっていると知り、これほどの数の動物が平穩に暮らしているのは実に興味深いことだと思いました。



次に京都の伏見稲荷大社を訪れました。鳥居の間をくぐり抜け、神道式の祈祷を見る機会にも恵まれました。伏見稲荷大社はずっと前から行ってみたいと思っていた場所ですが、実物には期待どおりの魅力がありました。その後、金閣寺を訪問しました。



伏見稲荷大社の鳥居



伏見稲荷大社の楼門

京都では伝統的な茶の湯に参加する機会もありました。とても面白い体験で、講師によると、サムライの時代でさえ彼らが刀を携えて茶室に入ることはなく、武器は外に置いておかなければならなかったそうです。講師が点てた抹茶を味わった後、自分で抹茶を点てましたが、これは思ったよりも難しかったです。

続いて宮島へ。有名な鳥居は工事中だったので拝むことはできませんでしたが、この工事が70年ぶりに行われていることを知り、私たちはとても珍しい行事に立ち会えたということが分かりました。



工事中の鳥居



宮島にて

大阪ではアサンプション国際高校を訪問し、ここではミサに出席した後、生徒たちと一緒に書道の授業に参加しました。その後校内を見学し、フランス語の授業ではフランスでの生活に関するプレゼンテーションを行いました。日本の高校とフランスの高校には大きな違いがあります。例えばフランスでは上履きもないし、教室の掃除もありません。制服もなく、生徒は基本的に学食で食事をとりますが、日本では多くの生徒が弁当を持参します。



書道の授業後、生徒の皆さんと



プレゼンテーションを終えた私のグループ

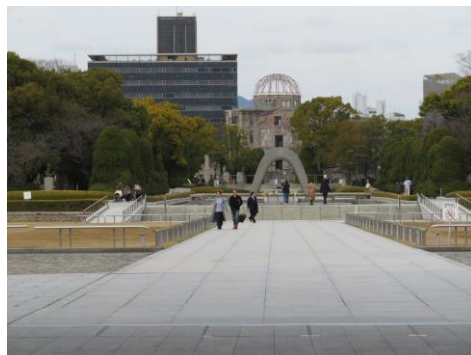
京都ではアンスティチュ・フランセ関西を訪れ、館長を務めるイルマン在京都フランス総領事とお会いしました。館内を案内していただき、ご自身の仕事についてのお話を伺いました。また稲畑勝太郎の子孫にあたる方にもお会いしました。稲畑勝太郎はパリ日本文化会館での2019年のプレゼンテーション発表会の際に私たちのグループが取り上げた人物です。この時のプレゼンテーションを稲畑さんと取材陣の前で再度発表することになりとても緊張しましたが、最終的には無事に終了し、とても良い経験になりました。稲畑さんからは稲畑勝太郎の伝記もいただきました。

私たちは日仏関係がご専門の立命館大学ワッセルマン教授とも面会し、能や日本映画についてのお話を伺いました。

また日本到着時には国際交流基金 関西国際センターで出迎えを受けました。ここでは基金の役割について説明を受け館内（生活スペースや図書館など）を見学しましたが、日本で
の学業や仕事を希望する外国人にとって、とても役立つ支援だと感じました。



国際交流基金 関西国際センターでの歓迎会の様子



広島
の慰霊碑と原爆ドーム

最後に広島を訪問し、原爆ドームや慰霊碑、平和の灯を見ましたが、この見学には大きな意味があると思いました。これは歴史の重要な一部であり、二度と繰り返さないため、また平和を実現するために忘れてはならないことだからです。

時期的に様々な制約がありましたが、今回の旅行で日本文化と日仏関係について多くのことを学ぶことができました。忘れ難い経験になりました！